

【視察調査報告書】

会 派 名	八王子市議会公明党
参 加 議 員	【議員】 8名 中島正寿、美濃部弥生、渡口禎、富永純子、久保井博美、日下部広志、森重博正、古里幸太郎
日 程	令和6年（2024年）5月8日（水）～ 5月10日（金）
詳 細	
視察日及び視察先	5月8日（水）岡山県美作市 NP0 法人山村エンタープライズ「人おこしシェアハウス」
視 察 内 容	不登校やひきこもりなどの若者が共同生活しながら社会的自立を目指す取組
概 要	自然に囲まれた古民家のこの施設は、不登校などを経験し、生きづらさを抱えた若者が共同生活をしながら、社会的自立を目指すシェアハウスであり、10代から40代までの男女20人が生活している。調理や掃除は当番制としているが、朝起きる時間や、その日の活動（日曜大工や小物づくり、ヨガやパソコン教室など、施設でできる活動など）への参加は、自分で自由に決めることになっている。バンドや手芸、パン作りなど、自分のやりたいことを自ら見つけて活動することもできる。市内のホテルなどと連携した職業訓練や農家での手伝いなど、地域に出ていく活動にも参加することで、社会とのつながりを広げる工夫もされている。 個人個人が、様々な経験において、スタッフや仲間とともに、失敗・成功体験を繰り返す中で、自己肯定感が高まっていき、成長と自立が得られていくという。 入居の期間は数カ月から1年以上と、一人一人違うが、この8年間で全国から96人が入居し、77人がこのシェアハウスを卒業した。自宅へ帰る人もいるが、卒業生のうち20人が市内で仕事をしながら自立して暮らしている。 入居者だけでなく、家族や地域の人に参加できる家族相談会を定期的に行われており、「ひきこもり」の理解を高めるためのセミナーやカウンセリングなど、家族へも寄り添った支援が行われている。 運営費は基本、入居者からの入居費（月額14万8000円）で賄っている。様々な制限が伴う自治体からの補助金制度などは利用せず、より自由に支援活動を行いたいという施設長の思いからである。なお、就労支援においては、市からの委託事業であり、美作市からの補助を受けながら、約100件の企業と提携し、職業体験やバイト先として協力してもらっている。
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	不登校、ひきこもり、発達障害など様々な背景を持ち、生きづらさを抱えた若者が施設に入居してくる。初めは希死念慮が強く、「もう死んでもいい」と追い詰められている人が3割いる。ところが、入居して1年程度シェアハウスでの暮らしを経て再調査をすると、そのうち8割の人が「生きていていいのだ」「やっぱり生きてみよう」という思いに変わり、希望を持てるようになるという話に大変感銘を受けた。なぜそのような実績を出せるのか。 この施設では、すべてのスタッフが入居者に対して「否定しないで接する」よう

に心がけているとともに、「自分自身で自分の生活や活動を決めさせる」という基本的なスタンスをとっている。そこには「どんな人でも人は本来、生きようとする力をもっている」という施設長の強い信念を強く感じた。自分で生活の仕方を決めるということは、自由をコントロールできるようになるための練習になり、ひいては自分の人生をどう生きるかを考えることにつながっているのだと思った。

さまざまな理由で入居してくる若者たちが、自分のことを見つめ直し、自立していくためには、安心していられる居場所、自分に寄り添い、自分を認めてくれて、心を許せる大人に見守られているという環境が非常に大切であると再認識した。

また、ともに苦しんでいる家族にも、相談窓口や支援の体制があることは重要である。

課題としては、民間が運営している施設であり、高額な入居費を毎月納める必要があることから、家庭環境によっては、入居したくてもできない場合も多いということである。

本市においても、不登校、ひきこもり、障害を持ち困難を抱える若者が多く存在している。例えば、生活困窮にある家庭のための助成制度や、あるいは市内の比較的自然豊かな地域の空き家などを活用し、市として施設の創設をするなどの可能性もあると感じた。

生きづらさを抱えた若者が、社会に出て自立するまでの居場所について、大変勉強になり有意義な視察となりました。NPO 法人山村エンタープライズ代表 能登大次施設長におかれましては、快く私たちを受け入れてくださったことに改めて心より感謝し、会派視察報告とさせていただきます。

視察の様子



視察日及び視察先	5月9日（木） 岡山県 備前市議会
視 察 内 容	日本遺産『備前焼』の活用に関する取組について
概 要	(1) <u>事業実施の背景、概要</u> ・備前市の人口は 31,692 人、面積は 258 平方キロ。備前焼は約1000年の歴史を有する。2017 年(平成 29 年)に6地域横断での連携事業として、「きっと恋する六古窯―日本生まれ日本育ちのやきもの産地」のストーリー名で 50 番目の日本遺産に認定。 (2) <u>事業の概要について</u> ・備前市には3つの日本遺産があり、形式は全て複数の都市で申請するシリアル型である。採択団体である「六古窯日本遺産活用協議会」(岡山県備前市、福井県越前町、愛知県瀬戸市、常滑市、滋賀県甲賀市、兵庫丹波篠山市)の事務局が備前市で「六古窯共創ネットワーク構築・受入環境整備等事業」を推進している。 (3) <u>現状及び今後の取組みについて</u> ・R4～R5 年各産地への現状把握(調査)、R5～6年で交流事業として産地ツアーを通し共創パートナーの新規発掘、連携意欲やニーズの把握、六古窯に対する理解度、関心度の向上、学び(勉強会)を通し意欲的なやきもの事業者の発掘、異業種のニーズ・トレンドの理解、また文化庁実証事業(魅力増進事業)など活用し、交流・連携を図っている。 R6年度以降は、連携事業化、事業化伴走支援、六産地以外の商流をつくる「地域商社事業」(仮)、インバウンド含めた陶泊事業体制の構築。 明年、令和7年開催予定の大阪・関西万博も活用して、持続可能な事業展開を図る。
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	(1) 備前市では3つの日本遺産が認定されており、相乗効果でインバウンド含め観光需要の掘り起こしに取り組んでいる。ただ、市内宿泊施設が少なく滞留時間が限定されるケースが多く、八王子市と似た状況。体験型宿泊ツアー(陶泊)などで長期滞留者を増やす取組は、本市にも参考になると考える。 (2) 認定更新時の地域活性化政策について、昨年文化庁より組織整備、戦略立案、人材育成、整備、観光事業化、普及啓発、情報編集・発信の7つの観点20項目の客観的審査項目が追加され、クリアにはうち4つ以上の可判定が必要と厳しくなってきたため、協議会として年2回進捗会議を実施し目標管理している。本市も認定更新に向けて PDCA サイクルを回して進捗管理していく必要があると考える。
視察の様子(備前市役所)	



視察日及び視察先	2024 年 5 月 9 日(木) 午後 14 時～ 於) 岡山市役所
視 察 内 容	デジタル人材育成方針について
概 要	岡山市では、市民サービスの向上や業務効率化を図るため、デジタル人材の育成が急務として「岡山市デジタル人材育成方針」を策定。その取組について担当の方よりヒヤリングを行った。 【組織体制について】 庁内のデジタル化、DX 化をさらに推進するため、これまでの「ICT 推進課」「情報推進課」を統合し、新たに「デジタル推進課」を設置。インフラ、業務系システム、ツールの活用方法検討、便利ツールの提供等作業は多岐にわたる。

	【デジタル人材育成】 少子高齢化に伴い市職員が減少していく中で、行政の対応はさらに細分化され、業務は加速度的に増加し、デジタル活用が必要不可欠となってきた。 これまでは「場当たりの対応」「明確な目標設定がない」など、デジタル人材育成が進まなかったが、体系的な職員へのデジタル研修の必要性を実感し以下の取組を開始した。 (1. 体系的な研修の実施) 皆が習得すべきデジタル基礎知識から、高度な技術習得まで、E ラーニングなどを活用し体系的に実施。 (2. 実務を通じた人材育成) 業務所管課において、デジタル技術の活用やプロジェクトマネジメント等のスキルを OJT により習得する。デジタル推進課は業務所管課を側面支援する。 (3. 資格取得の奨励) DX を推進するための基礎となるデジタル知識の資格を取得するためのコンテンツを提供する。職員の互助会で受験料を負担、合格すれば受験料の返却を行うなど、きめ細かな対応も行なっている。
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	今回の視察を通して、来るべき人口減少時代に向けて「デジタルの積極的な活用」「行政の DX 推進」への強い決意を感じました。特に資格取得への取組に関しては「業務上必要なスキル」「個人のレベル」を考慮し、明確な目標設定を行なっている点が印象に残りました。本市においても、デジタル人材の育成は喫緊の課題です。 学ばせて頂いた内容を本市でも活かしていけるよう、取組を進めてまいります。
視察の様子	
	

視察日及び視察先	5月10日（金） 京都府京都市 京都動物愛護センター
視 察 内 容	京都動物愛護センターについて
概 要	・京都市 人口約143.6万人(令和6年4月1日現在) ・京都動物愛護センターは、最寄駅から徒歩圏内の交通機関のアクセスに優れた都市部に所在。緑豊かな上鳥羽公園内に設立。太陽光発電パネルや動物愛護施設としては全国初となる地中熱利用システムなど、環境技術を積極的に導入し災害時も考慮した施設。 ・館内ではマスコットキャラクターの京ちゃん(犬)と都ちゃん(猫)がお出迎え。木材を使用した温かみのある造り。 動物愛護に関する各種事業を推進するための拠点施設として、平成27年4月1日より運営開始。全国初となる都道府県と政令都市が共同して設置、運営する動物愛護管理施設。センター組織としては、府と市の愛護センターが一緒に所在し、役職は併任している部分もある。年末年始を除き常に稼働状態で、ボランティアスタッフの協力も得て運営をしている。 役割の中には、京都市独自の事業（ペットショップやペットホテル等動物取扱業の登録・届出及び監視指導、まちなこ活動支援事業のまちなこ避妊去勢手術等）もある。京都方式を導入していることも特色となっている。 ※京都方式：犬の保護・収容から譲渡に至る過程の大部分において、外部の専門家のもと、職員とボランティアスタッフが協働で現場作業を実施。 センターは事務所棟と動物棟に分かれ、外にはドッグランも併設されている。（ネーミングライツ導入） ●事務所棟の機能 犬猫の譲渡情報やイベント等の情報発信、各種受付、会議やセミナー等に使用できる会議室、譲渡希望者が犬猫とお見合いができるふれあい室 ●動物棟の機能 治療室、夜間動物救急センター(獣医師会との連携)、トリミングルーム、まちなこ舎(避妊去勢手術をする猫の一時保管)、犬猫の収容室、検疫室、譲渡室 今回の視察では、京都動物愛護センターの業務内容や施設状況に加え、犬猫の年度別収容、譲渡、殺処分の各頭数についての説明等を受けた。
所 感 等 (意見・課題・本市への反映など)	郊外に設置されることが多い動物愛護センターが駅から徒歩圏内にあり、公園内に設置されたことにまず驚きました。特色にもあるように、自然と調和された緑豊かな施設であると感じました。 今回の視察では、事前質問の内容を説明にも落とし込んでくださり、センター長と市の担当所管係長から多岐にわたりご説明をいただきました。（おふたり共、獣医師の免許をお持ちでした） 全国初の府と市の共同設置の素晴らしさはさることながら、獣医師会との連携

による夜間救急体制もあり、また、子猫については収容後、致死率が高い感染症があることから、一時的にボランティアに預け経過観察し、譲渡する仕組みができていることに感嘆しました。センター内でもボランティアスタッフの存在は大きく、人と動物が共生できるまちを掲げている中で、協働の形ができていることは学べべき点です。犬については、譲渡が難しい場合の福祉的処分がある中で独自の京都方式をつくり、外部の専門家の監修のもと職員とボランティアスタッフが協働し、譲渡犬の終生飼育に繋げるアフターフォローまでしっかり実施されている点は特筆すべきことと思いました。

八王子市と比べ、京都市は犬猫の収容数が多く、相違点としては、八王子市では野良犬がいない状況に対し、京都市では野犬の収容が多く見られました。そのことも考慮された業務構築をされていると感じました。

殺処分ゼロ実現に向けうかがったところ、現実的には難しいことと、センターの収容数にも限りがあるため、可能な限り、特に収容数が多い子猫の譲渡促進に努めるとの回答がありました。殺処分減少に向けては、地域住民主体で野良猫の餌やトイレ等の世話をする「まちねこ活動」の支援事業として、避妊去勢手術をセンターで無料実施する行政支援を行っているとのことでした。

※市獣医師会会員の動物病院で避妊去勢手術を実施する場合は助成金あり。

以下、その他、主な事前質問を踏まえたご説明内容です。

問) 財政状況について(令和4年度)

答) <収入額>

- ・ 府市：5,789,625 円(ドッグラン使用料、夜間診療所)
- ・ 市：4,006,900 円(動物取扱業や犬猫引取の手数料)

<支出額>

- ・ 府市：23,589,110 円
 - ・ 市：9,759,380 円(大部分マイクロチップ助成事業)
- ※府と市で覚書を交わし、府市共同事業については折半

【寄付金充当状況】

- ・ 京都市動物愛護推進基金：5,530,590 円(平成24年度設立)
- ・ 京都みらい夢基金(ふるさと納税)：7,930,872 円(令和3年度設置)

問) 犬、猫の避妊去勢手術費用の助成制度利用状況

答) ○市内の飼い犬、飼い猫を対象とした実績

令和元年～令和4年：助成利用実績 毎年1,000頭(比率 犬1：猫2)
犬、猫(オス、メスとも)補助額5,000円 / 助成枠1,000頭/年
平成19年より市獣医師会会員の動物病院で実施

○まちねこ活動支援事業(野良猫)実績

動物愛護センターにて無料で実施

令和元年195頭→令和4年137頭

問) 災害時の避難所としての機能、体制について 答) 飼い主からはぐれた動物の保護収容、被災動物のための救援物資の保管及び配布、動物用医薬品、テント、ケージ等の備蓄 問) 災害時の避難・ペット同行避難について 答) 京都市内 431 の指定避難所の内、429 箇所(99.5%)で受入体制が整備 ※ペットの防災手帳あり 問) マイクロチップ助成事業について 答) 市獣医師会の協力病院で、犬猫へのマイクロチップ装着を無償で行う事業 平成 27 年開始。市内の飼い犬、飼い猫対象。 災害時、飼い主とはぐれても飼い主のもとに帰れる可能性が高まる 無料実施 1,500 頭/年(有料の場合 2,650 円/頭) 令和元年 819 頭→令和 4 年 1,306 頭 ※GPS 機能は無し 問) ドッグランのネーミングライツについて 答) 現名称：ヒルズ・ドッグラン 日本ヒルズ・コルゲート株式会社がネーミングライツパートナー (平成 27 年 11 月 1 日～令和 7 年 10 月 31 日までの 10 年間) 契約金額：500,000 円/年 その他、ペットフード等の支援あり ※ドッグランは、中・小型犬と大型犬でゾーン分け 八王子市は中核市として動物愛護センターを独自設置、運営できる権限を持ちながら、設立する場所の問題でなかなか進展をしない状況にあります。市内で老朽化した施設の統廃合による土地の利活用で、建設場所を探す方針がある一方で、迷惑施設として街なかには建てることできないという見解もあります。しかしながら、今回の京都動物愛護センターの視察で、街なかであっても建設ができることがわかりました。京都市と同様に、自然と調和させた施設として建設をするのであれば、八王子市においても十分可能であり、北野清掃工場跡地をそのまま利活用することもできるのではないかと思います。(京都動物愛護センターはドッグランも含め施設全体面積は約 1.1ha)駅から少し離れていても、駐車できるスペースがあれば広く集客が期待でき、カフェや一般客が利用できるサードプレイスの要素を兼ねた施設とすれば、利潤も見込めます。北野下水処理場・清掃工場跡地活用基本構想を読んでも、立地条件としては適地とみてとれると思います。単独施設としてではなく、複合施設として視野を広げて検討をしていけば可能性も広がるため、今回の視察で得た知見を、今後の八王子のまちづくりの一環として、動物愛護センターの設立についても活かしていきたいと思っています。
--

視察の様子

【京都動物愛護センター 外観】



【京都動物愛護センター 事務所棟内観】



京ちゃん(犬)
都ちゃん(猫)



業務内容や施設について、京都市動物愛護センター伊東所長と京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課・塩田動物愛護係長より説明を受けた。



動物棟内を案内していただき視察。



譲渡室(猫)



譲渡室(犬)



夜間動物救急センター



治療室



ドッグラン